

令和三年度 第七十一回卒業証書授与式 南会津高等学校 校長式辞

式辞

冬の厳しさが続いている中でも、太陽の光の暖かさから、春の訪れを感じるようになってきた今日の佳き日に、保護者の皆様のご列席のもと、福島県立南会津高等学校第七十一回卒業証書授与式を挙げてまいりますことはこの上ない慶びであります。

ただいま卒業証書を授与されました三十二名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、我が子の成長を願い、愛情深く育ててこられた保護者の皆様に心からお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんは、平成から令和に替わる四月に入学という、まさに、新たな時代の幕開けに高校生活が始まりました。有意義な高校生活を送っていましたが、一年生の三学期に、新型コロナウイルスの感染拡大により、県内一斉の臨時休業となりました。この時から、皆さんの高校生活は思い描いたものから大きく変わりました。

二年生の時は、目標にしていた大会や楽しみにしていた修学旅行が中止となり、悔しい思いもしました。

本日もご来賓のご臨席、在校生の出席がかなわず、保護者のご列席も制限せざるを得ないことは誠に残念であります。

様々なことが制限された高校生活でしたが、皆さんは校訓の「真摯・明朗・健康」のとおり、学習に部活動、生徒会活動などにおいて意欲的に取り組み、素晴らしい成果をおさめました。このことは、本校の大きな誇りであるとともに、後輩へのよい見本となりました。

本校で学んだことを活かして、一人ひとりが明るい未来に向かって、より一層活躍することを期待しています。

さて、東日本大震災から、十一年になります。震災を経験していない世代が増え、時間とともに震災の記憶が薄れてきています。福島県として震災の記録を後世にどのように伝えていくかが大きな課題となっております。

三年生の四月に研修旅行で「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学しました。今まで映像や写真で見てきたことを、被害にあった地に行き、目の当たりにしたことは、大きな学びになったことだと思います。

福島県の震災の記録や復興の様子を後世や他県の方々に伝えていくことは、皆さんの役割です。

そして、皆さんが福島県の復興を担う人材になることを心より願っています。

本校は昭和二十三年に地元の熱い要望で「南会西部高等学校」として開校しました。

昭和二十七年三月に第一回卒業証書授与式が挙行され五十四名が卒業しました。皆さんを含めすと六五四九名が本校の卒業生として地元南会津町を始め、県内外で活躍をしております。

令和五年四月に本校と田島高等学校との統合が計画されており、先日、統合校の校名が「南会津高等学校」と発表されました。地元南会津町に貢献する人材を育成する南会津町唯一の学校として、新たな歴史をきざんでいくこととなります。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。また、本校の教育活動にご支援ご協力をいただきありがとうございました。

お子様は本校で様々なことを学び体験したことで、大きく成長しました。今日の晴れ姿をご覧になって実感されたことと思います。これも保護者の皆様の日々のサポートのおかげと教職員一同感謝しております。

これからの人生において、お子様が困難に直面することもあるかと思いますが、今後とも温かく見守り、支えてくださいますようお願いいたします。

結びに、卒業生の皆さんの未来に幸多からんことを心より祈念し、式辞といたします。

令和四年三月一日

福島県立南会津高等学校長 中村康伸